

重信川河口域の湿地環境保全 ～高校生の取り組み～



愛媛県 松山市・松前町
愛媛県立伊予農業高等学校
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

1 社会資本の概要

重信川河口域は、環境省より「シギ・チドリ類の重要渡来地域」「日本の重要湿地 500」に選定されるなど、四国最大の都市松山市近郊における優れた環境を有する地区です。

しかしながら、近年、ヨシ原や干潟の減少など環境悪化が進んできたことから、学識者、NPO 等、行政、大学生、高校生などで河口ワーキング部会を設立し、ヨシ原再生に関する意見のとりまとめ、住

民参画方法やモニタリング計画等について討議を重ねました。整備中も近隣の小学生や地域住民等が参加してヨシの植栽を行い完成しました。

完成後、定期的な河川清掃作業等を行い、現在は近隣小学生の環境学習の場として活用されるとともに、バードウォッチングの絶好の場として、多くの愛好家が訪れています。



重信川河口域 干潟・湿地全景



環境保全活動で野鳥の楽園となっている重信川河口域

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「貴重な干潟・湿地を守りたい」、「地域の誇れるシンボルを残したい」という思いから活動を始め、干潟・湿地の保全・再生に当たっては、初期の段階から学識者、NPO 等、行政、大学生とともに、ヨシ原再生事業のワークショップに高校生自らが参画し、計画づくりに携わるとともに、ヨシの移植作業にも参加しました。

ヨシ原再生事業の着手後、D-GPS を用いた河口

域の植生分布調査、干満による水際の変化調査、WEB カメラによるライブ配信、清掃活動を継続的に実施しています。ヨシ原の植生分布は増加傾向にあります。その反面オオキンケイギクやナヨクサフジ類などの外来植物の分布も確認され、その駆除にも取り組んでいます。

また、日本野鳥の会愛媛と連携して鳥類調査を行うなど、活動の幅が広がっています。



河口ヨシ原再生ワークショップへの参加



ヨシの移植作業に参加



小学生の環境学習（カニの観察会）

3 活動の成果や波及効果等

平成 23 年 3 月に河口ヨシ原再生事業が完成した後も、継続的に環境調査・保全活動を行っています。その成果として、ヨシ原再生の目標種の 1 つであるオオヨシキリの営巣も平成 26 年に確認されました。また、ヨシ原再生箇所において、愛媛県内で絶滅危惧種とされていた陸貝「オカミミガイ」の生息も確認できました。これらの活動の成果は地元紙にも取り上げられ、環境保全に関する意識高揚にも繋がり、次世代の人材育成も広がっています。



「オカミミガイ」の追跡調査



GPS によるヨシの植生分布調査



重信川シンポジウムでの説明



重信川フォーラムでの発表



定期的な清掃活動



小学生の環境学習（鳥類観察）

所在地
愛媛県松山市、伊予郡松前町

活動主体及び連絡先
愛媛県立伊予農業高等学校
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
連絡先 (089-982-1225 顧問 玉井修二)

対象となる社会資本
重信川河口域
※管理者：国土交通省 松山河川国道事務所



喜びの声



受賞者

愛媛県立伊予農業高等学校
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
顧問 玉井修二

コメント

この度は栄誉ある賞をいただきメンバー共々、一層活動に力が入っています。重信川河口湿地には豊かな生態系があり、環境教育の学習の場として最適です。今後も 20 年、30 年と続くよう地道に活動を続けていきます。

活動内容

湿原の保全・再生・調査活動、清掃活動、環境学習・教育の場づくり など

活動の経緯

平成 16 年 会の設立。
干潟・湿原の保全・再生活動開始
平成 20 年 河口ワーキングに参画
平成 23 年 河口ヨシ原調査開始